

KODAK Gray Scale

C Y M

Kodak LICENSED PRODUCT



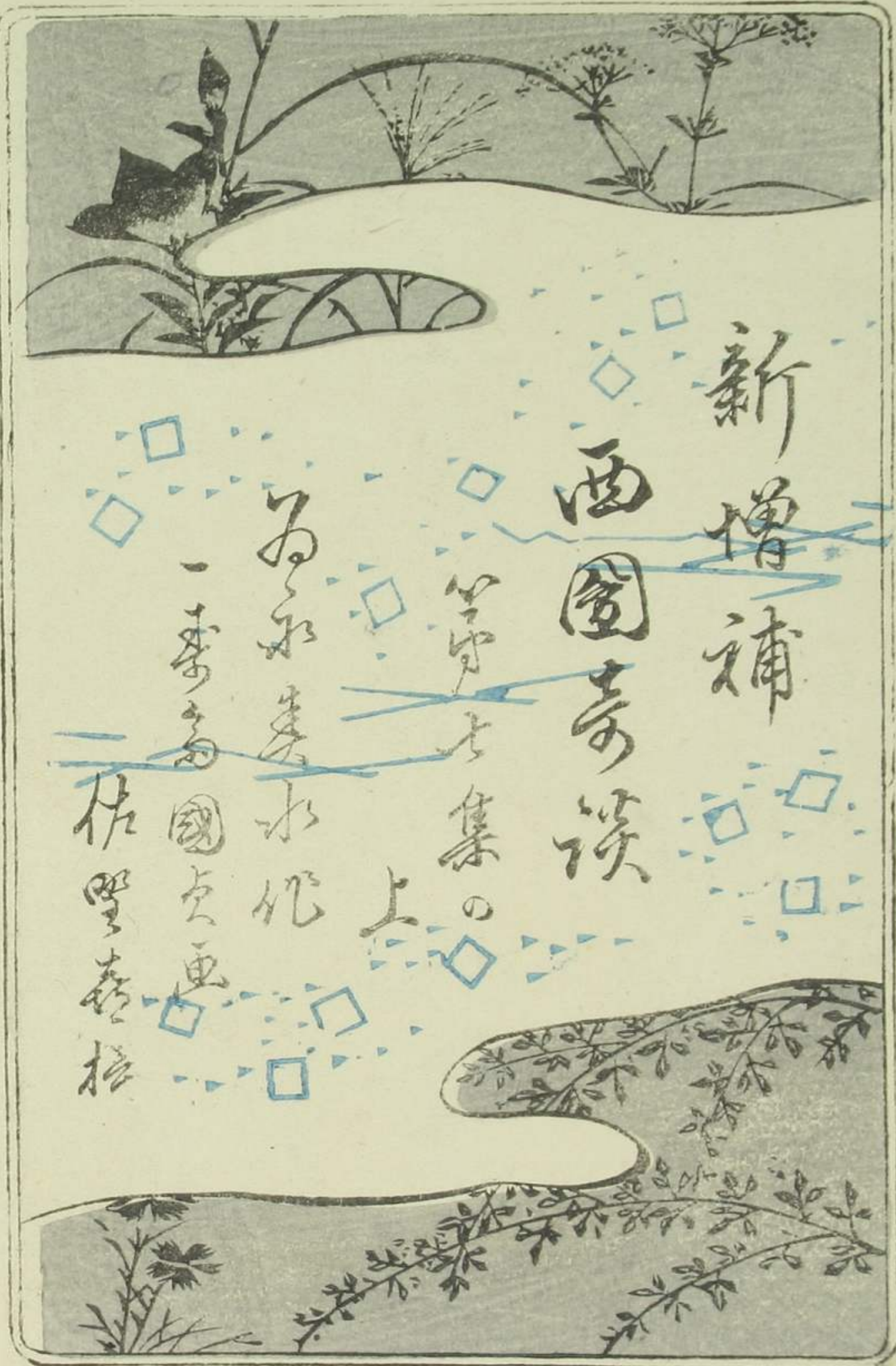


西國奇談 七編

什題曲豆國立

上

特
へ13
3086
4



新増補

西園奇談

あふま 水化
 一多 多 國 貞 直
 佐 野 春 樹

そものさき 何れも 策子へ 前販を 増補
 せよとの 需あり 我 尋く 僕が
 意欲の 演 六 緯系 新作 著

以 稀あり 然るに とも 旧板 小
 立る 條へ 違と 或へ 名を 衰
 品へ 換は どの 本原 へ 失は ぞ
 茲中も 飯野の 風坑の 那 段を
 ろらもの のらら 頃へ 初冬の 弥
 寒 此 窓の 障子の 風光 ほど
 人の 耳を 駭く さぬ 残を ぞ
 顔 小机 小対ひ 火の 気も 薄き
 巨燵の 裡 小穴 籠りて 藁 城の のも



安政四丁巳子夏 稿成
 同 六巳 赤初春 發市
 春水誌

西園奇談

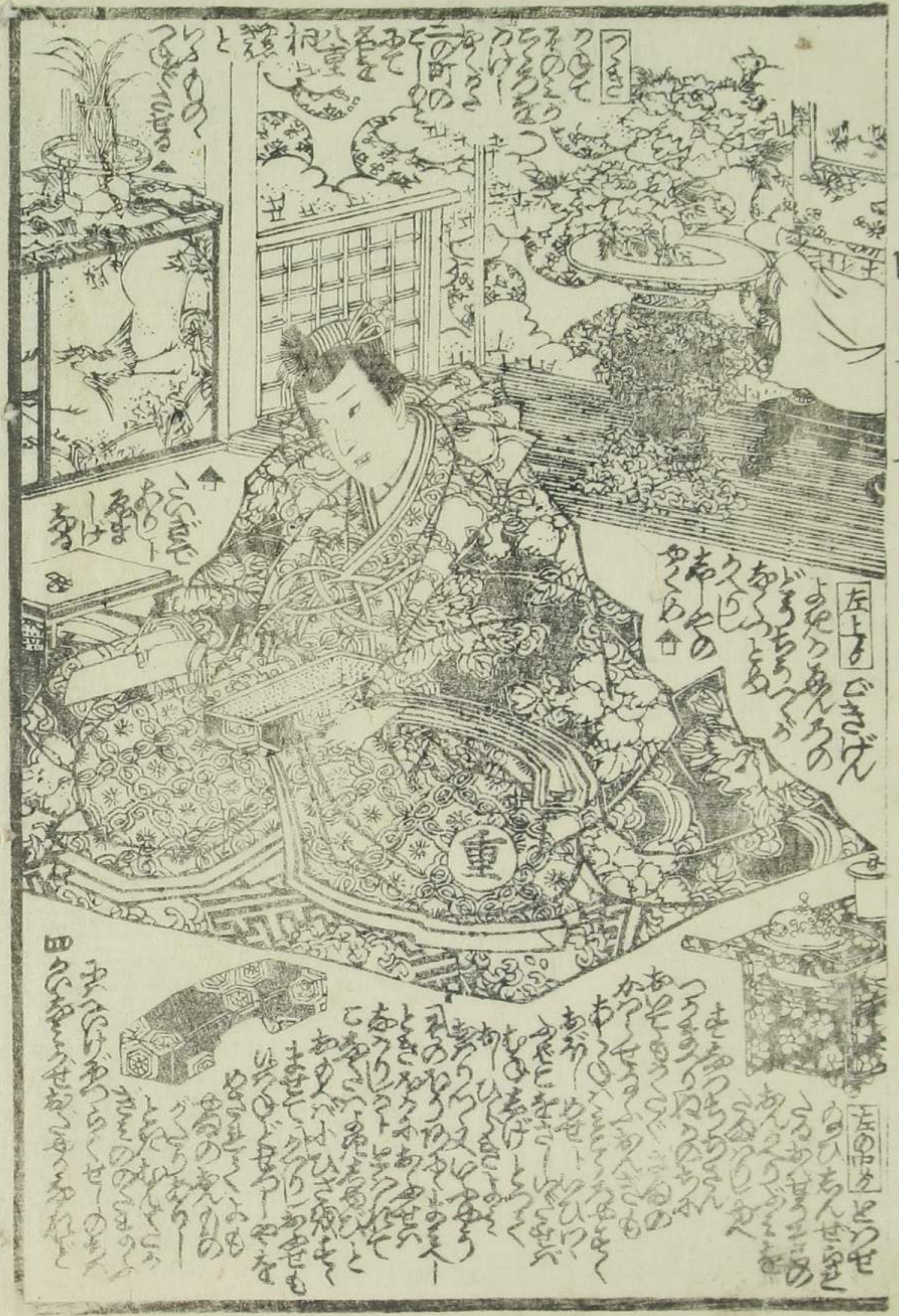
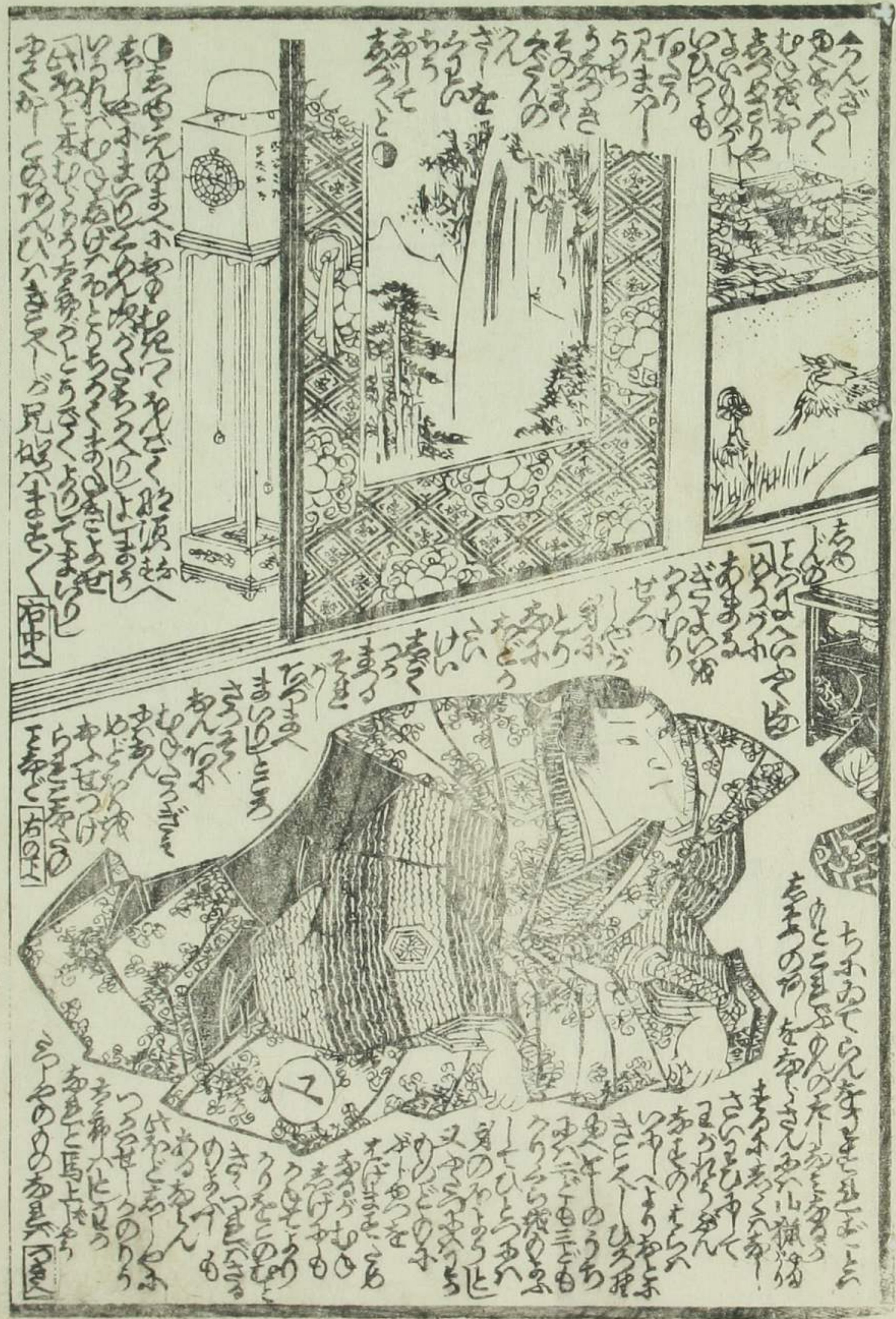




西園寺談上



西園寺談上





西国書



西国書

國貞画 春水作



右羊十國固神

下の巻つゞく

西國

奇談

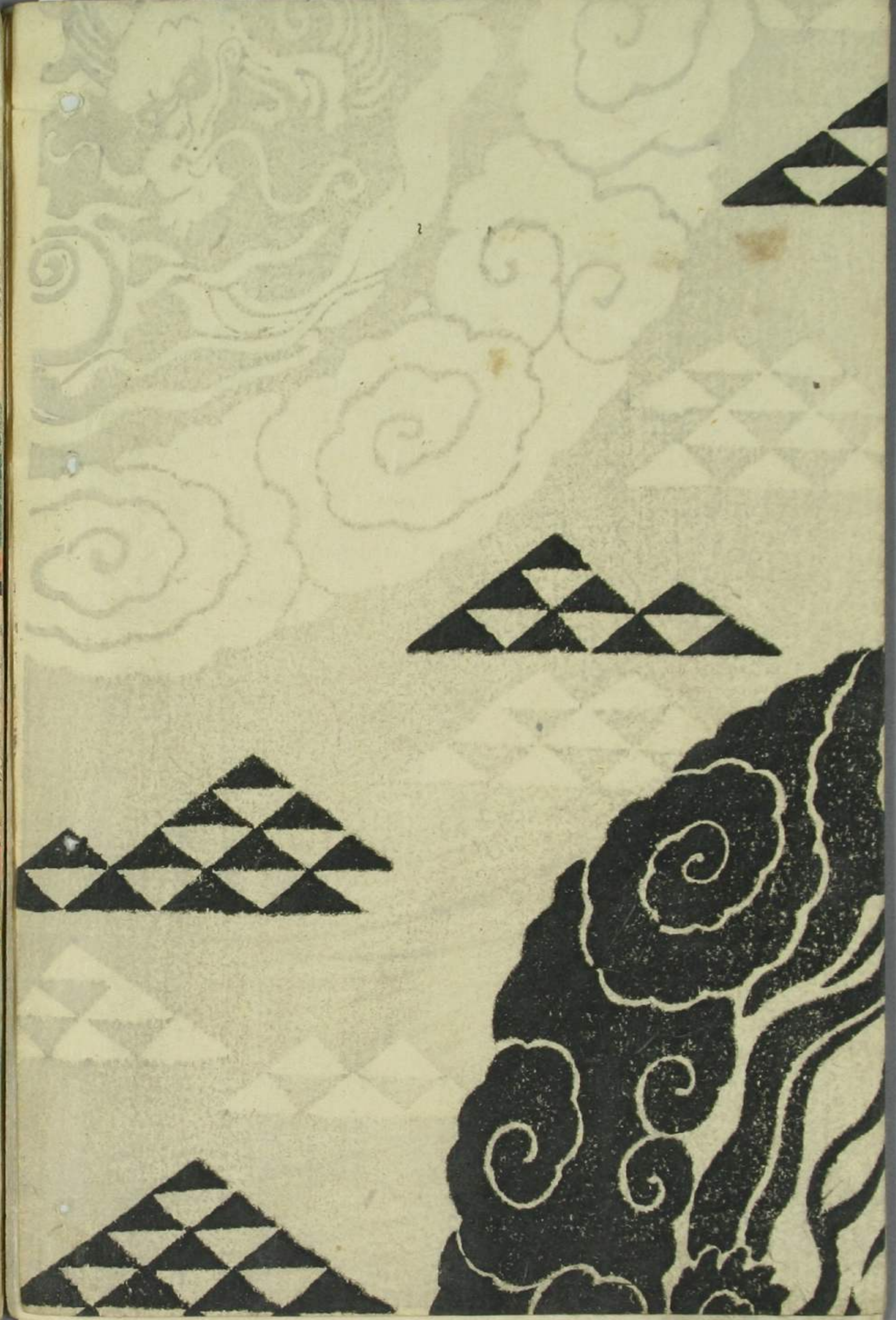
春水補綴

國貞画

根源實紫新刻概畧

作者 柳亭種彦

十編(五面次)の計と聞き、重桐及伏見とあると阿杉の忠義の
 りのりう五面次只管婚を促し、及方便の裏でかれ暗小醜婦を
 娶るの一段話説かへつゝ、向童を以て残毒とて、捨むの一端十一編の
 八童が浴室で、虚井の守袋を盗るゝその男は、替る夏とてか
 及同苦女の計り、かの秋風を敷く二段譚で、最巧みめり
 十二編の秋風虚井毒手みりて終つて、非命死するより殺生石の
 一奇談のいゝ龍太郎の伝ふのいゝ人、此間五面次八重桐らごと
 ても説く引つたお違ひ、當年の内にお出板るゝと
 十三編 惟規の北海の危難鳴高他を謀て自つて天の網船扱手兒釣出す花園
 の遊宴小式部が画賛へ呪詛の種村心の火性小浮氣の水性者、如術は醜婦怨む
 美人と化す十四編 小鮮の食嗜みは水の即今それ八階の宇依良官奉幸府のかり疾
 夢の中なる幻譚みたり、現の中なる夢中の奇邊の半玉と十五編 心筑紫の夢覚て松の
 信濃と産ぐ袖の淺井管絃講香炉節の死に室苗すみり、教むる又悲哉式部亮の談は、



三

三



西国奇談

十一



西國

奇

談

七の巻

その巻

水鏡

とに

中

野野



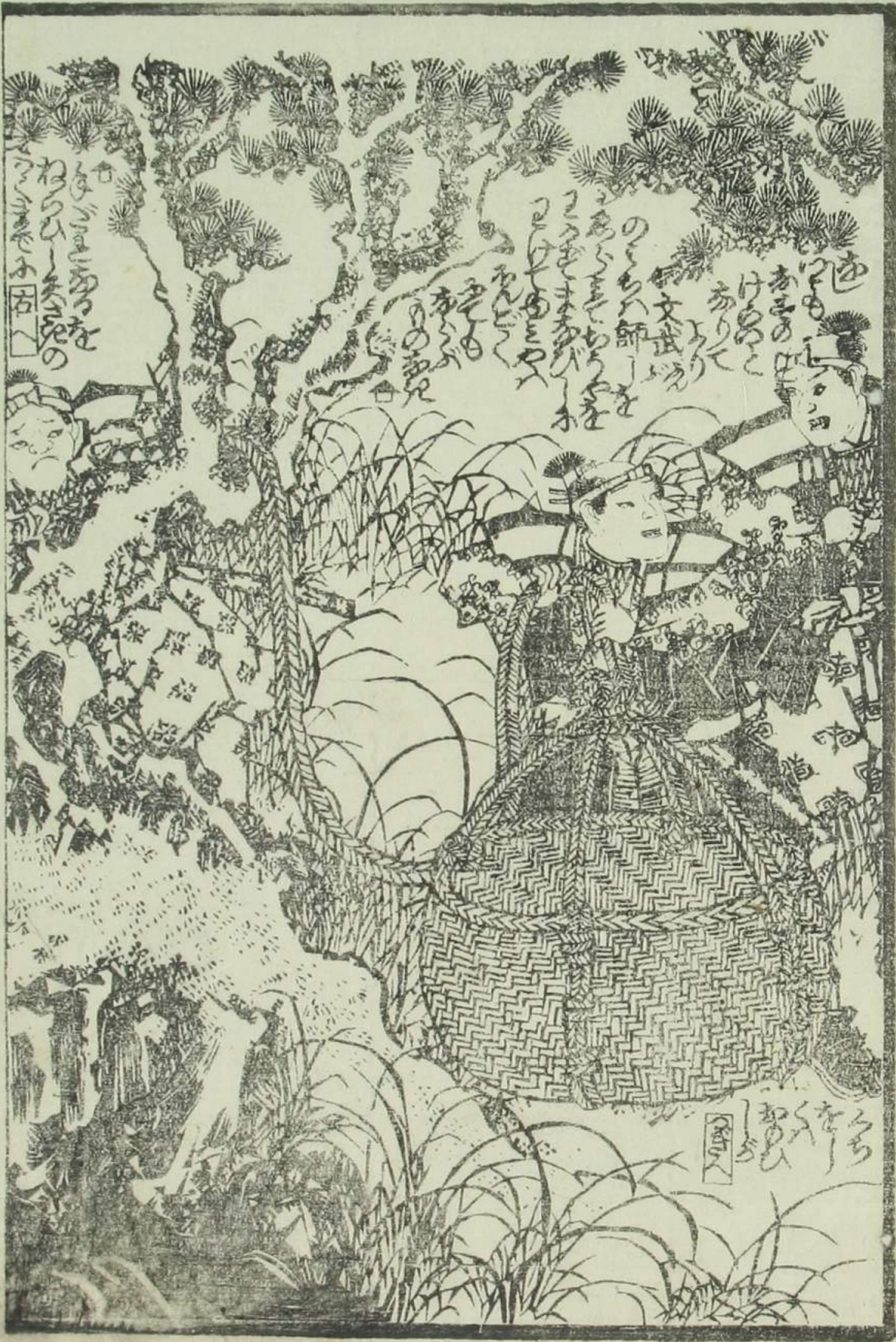
西国奇談

十一



西国奇談

十二





十四

十五



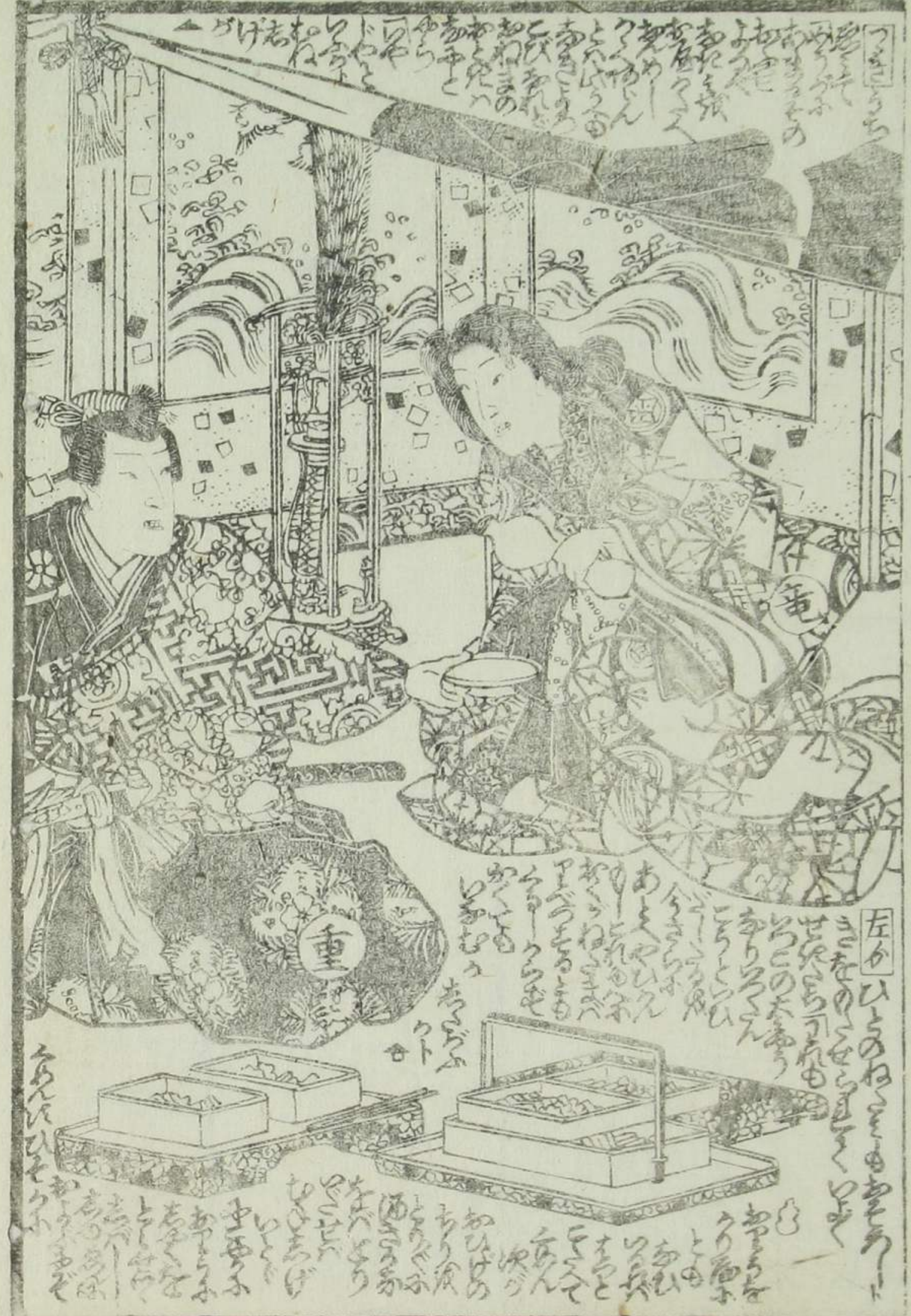
十四

十五

四







西国前記



西国奇談七

萬延二年酉新年鐫目録

地本繪草紙團扇問屋
芝神明前
三島町
佐野屋喜兵衛板

新增補西國奇談 十一編 為永春水作 歌川貞画	花兄弟陸奥名所 初二編 柳亭種彦作 画	總次郎琴聲美人録 十七編 山東京山作 歌川貞画	娘庭訓金鶏 五編 同 同 画作	根源實紫 十四編 柳亭種彦作 一壽齋國貞画
---------------------------------	------------------------------	----------------------------------	-----------------------------	--------------------------------

春水補綴國貞画

朝牛肉丸百銅
鮮ひんねおきさるひ
きんをさるひのまゆ
茶あられなきまき
ふふふふふふふふ
下をさるひのまゆ
對漆崎氏製



西国奇談七



春水補綴

什意曲至國也

上



不 禮 講

机の上の壘と一思ふをかり小終まる冊子も。
 早晚積りて八編の爰少い次郎宗重がかの
 不礼講の一段の花を咲せし情あれども下戸小
 酒樽上戸小團子甘いと辛味の鹽梅が齟齬する
 腹藁をから瓢箪をら出と午の春の如笑草を

急死しふ。夫さる期のおくれ咲死。白ひも失せし
 櫻木の板小上を摺巻紙の覽の末に今檢の
 支韓の未ふありと啖せらるね。

安政 午暮春稿
 未新春叢
 爲永春水記る

白田行八

西國奇談

第八篇の上

ま水補綴

國貞畫









○Oni
今この世を
きつておどろか
すものぞ

○Oni
今この世を
きつておどろか
すものぞ

○Oni
今この世を
きつておどろか
すものぞ

百鬼夜行

五



ついでに
今この世を
きつておどろか
すものぞ

○Oni
今この世を
きつておどろか
すものぞ

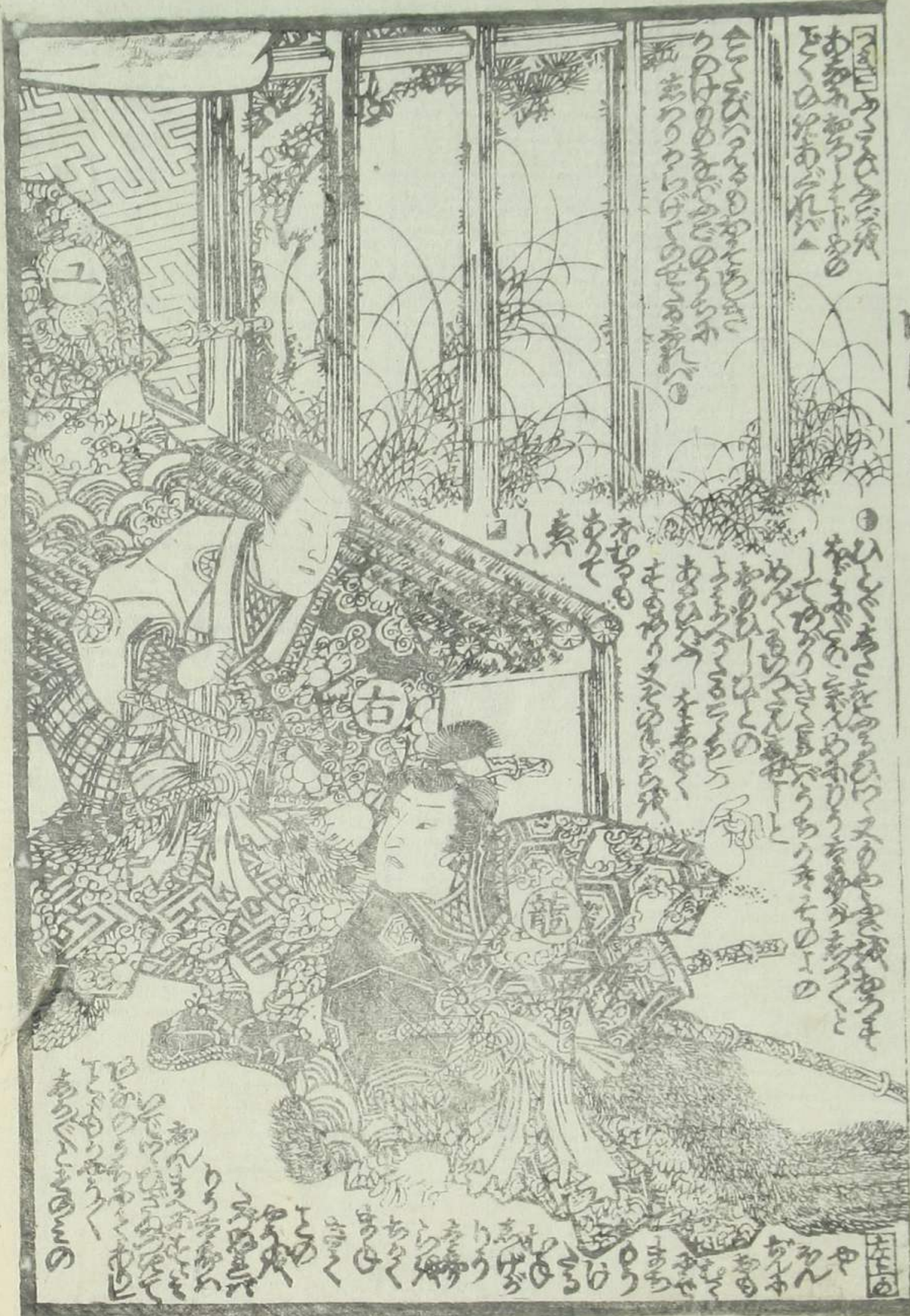
○Oni
今この世を
きつておどろか
すものぞ

○Oni
今この世を
きつておどろか
すものぞ

○Oni
今この世を
きつておどろか
すものぞ

百鬼夜行







ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい

ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい

ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい



ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい

ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい

ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい
 ついでにちやうちあふい
 うひてようちあふい



● ちんちん
 さだめ
 つつが
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん

● ちんちん
 さだめ
 つつが
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん

● ちんちん
 さだめ
 つつが
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん

● ちんちん
 さだめ
 つつが
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん



● ちんちん
 さだめ
 つつが
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん

● ちんちん
 さだめ
 つつが
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん

● ちんちん
 さだめ
 つつが
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん

● ちんちん
 さだめ
 つつが
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん

西國の事... 北海の危難... 鳴高他を謀く自のつ天の網船... 抜手兒釣出す花園... 遊宴小式部... 画賛へ呪詛の種村心の火性小浮氣の水性一者... 如術は醜婦忽ち美人と化す... 十四編小鮮の食嗜み... 池水の即吟... これも八幡の宇佐良... 宣孝の宰府のかり疾夢の子... 幻の譚... 始り現のやうな夢中の奇遇の半... 十五編心気紫の夢覚... 於の信濃と灌ぐ袖の淺代管... 敏講香炉節... 死宝苗... 水かき... 敵わ... 又悲... 式部... 竟の談... 格る



國貞画

春水補綴

下の巻へ
あつたふ
うらうら
あつたふ
あつたふ
あつたふ
あつたふ

西國

奇談

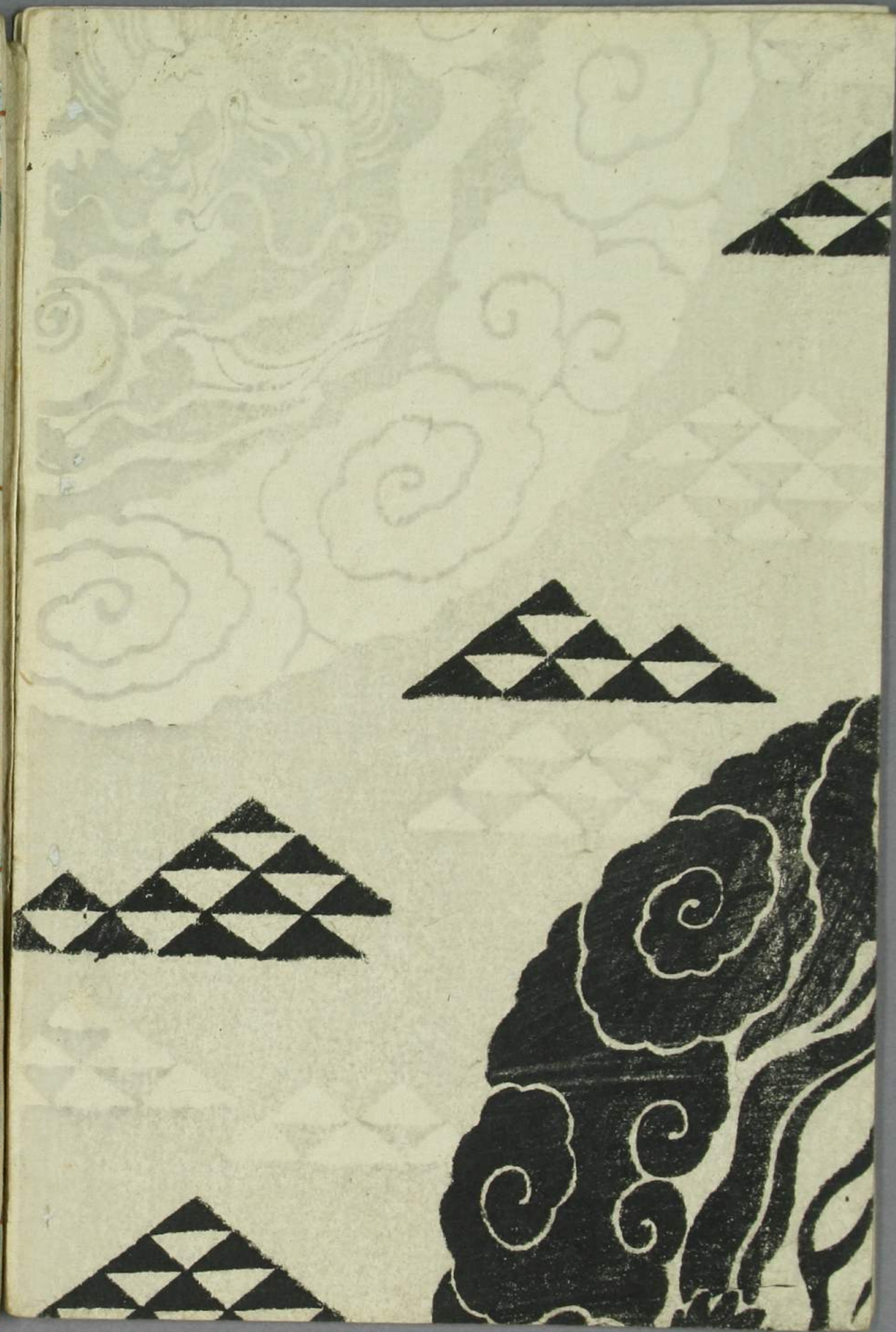
春水補綴

國貞画

根源實紫新刻概畧

作者 柳亭種彦

十三編 惟規の北海の危難... 鳴高他を謀く自のつ天の網船... 抜手兒釣出す花園... 遊宴小式部... 画賛へ呪詛の種村心の火性小浮氣の水性一者... 如術は醜婦忽ち美人と化す... 十四編 小鮮の食嗜み... 池水の即吟... これも八幡の宇佐良... 宣孝の宰府のかり疾夢の子... 幻の譚... 始り現のやうな夢中の奇遇の半... 十五編 心気紫の夢覚... 於の信濃と灌ぐ袖の淺代管... 敏講香炉節... 死宝苗... 水かき... 敵わ... 又悲... 式部... 竟の談... 格る







けふとあり
とやあひ
けふとあり
よりにして
ひとあひ
うつりあ
二の町と
やうの
やうの
とやあひ
とやあひ
二の町と
よりにして
ひとあひ
うつりあ
二の町と
やうの
やうの

けふとあり
とやあひ
けふとあり
よりにして
ひとあひ
うつりあ
二の町と
やうの
やうの

けふとあり
とやあひ
けふとあり
よりにして
ひとあひ
うつりあ
二の町と
やうの
やうの

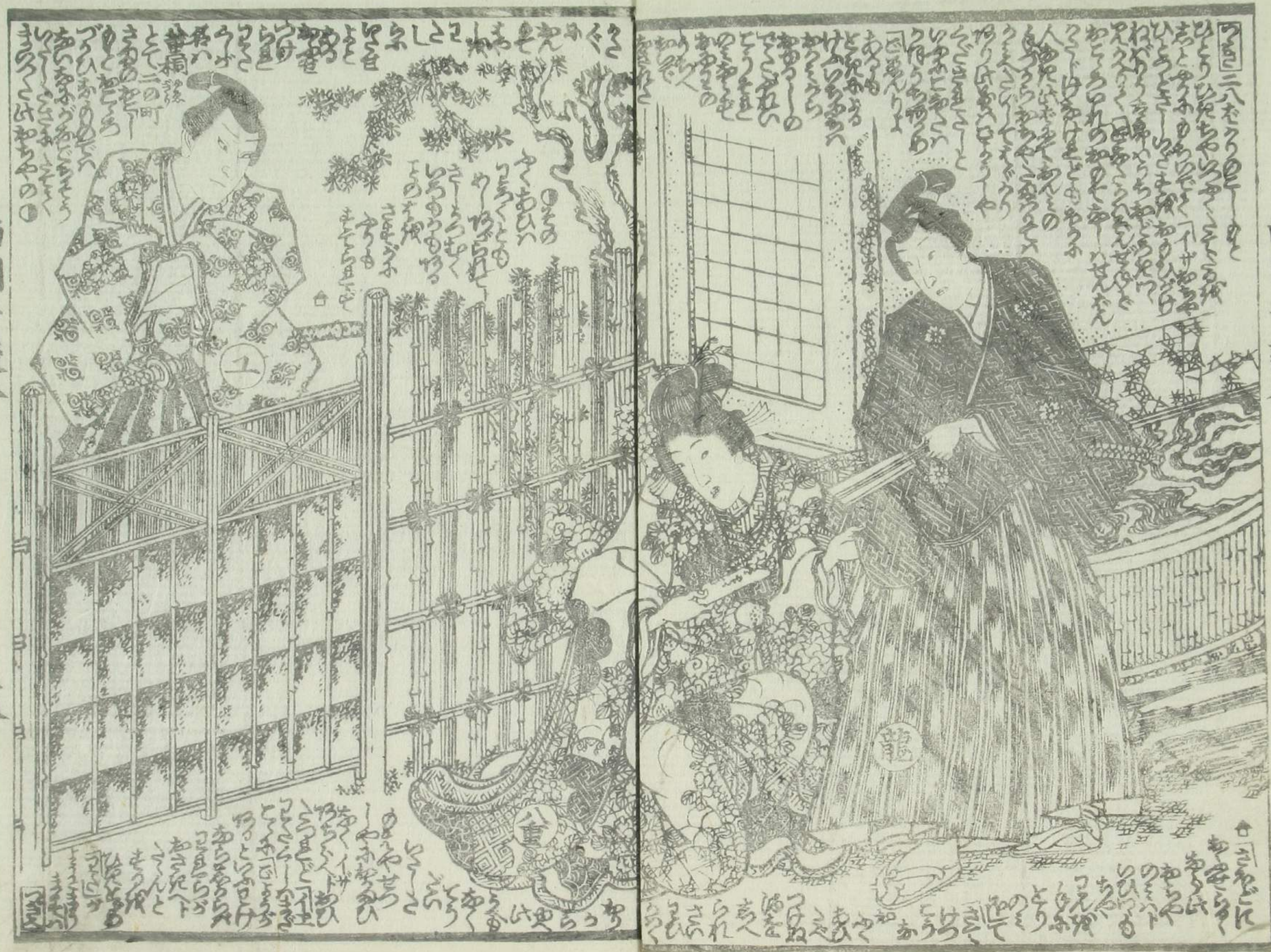


けふとあり
とやあひ
けふとあり
よりにして
ひとあひ
うつりあ
二の町と
やうの
やうの

けふとあり
とやあひ
けふとあり
よりにして
ひとあひ
うつりあ
二の町と
やうの
やうの

けふとあり
とやあひ
けふとあり
よりにして
ひとあひ
うつりあ
二の町と
やうの
やうの





くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ

くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ

くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ

くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ

くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ

くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ
 くさくさ けさくさ せきくさくさ
 せきくさくさ せきくさくさ

春の
あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき



あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき

あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき



あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき

あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき



あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき
あけぼの
うきうき

Handwritten text in a cursive style, likely a chapter heading or introductory text, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive style, located at the bottom of the right page, below the illustration.

Handwritten text in a cursive style, located at the top of the left page, above the illustration.



Handwritten text in a cursive style, located at the bottom of the left page, below the illustration.



春水補綴

約信補

分八編

西園集

西園集

喜鶴堂梓



さい
い
ら
き
だ